

# 横瀬小学校 「学力向上実行プラン」

## 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 個別最適な学びによる基礎的・基本的な知識・技能を定着させる指導の実践
- 協働的な学びを取り入れた子供の思考力・判断力・表現力を育む授業改善
- 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る指導の工夫

## 学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教諭・国語主任 新田 彩乃	委員 校長 教頭 教諭 教務主任 教諭 研修主任 教諭 特別支援コーディネーター	石田 早人 古田 哲也 笠松 京子 沖野 有結 岩野佳那子
-----------------------------	--	---

校長

石田 早人

### 【小中連携または中高連携における共通の取組】

○読書活動の推進と国語力向上を目指した図書館との連携

### 【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や各教員による自己評価を毎月行い、学期末に報告することで、取組状況を把握する。

### ◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

#### (1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能について身につけている児童が多い。 ●長文に対し苦手意識のある児童が多く、長文を最後まで読み取ったり、書かれてある内容を理解したりすることに課題がある。	・基礎的・基本的な漢字の読み書きや四則計算などが確実できる。 ・タブレットPCを活用して自分に合った学習をすることができる。 ・長文を最後まで読み、その内容を的確に捉えることができる。	・朝の国算タイムに全学年でドリル学習を取り組み、基礎・基本の学力を身につけさせる。 ・GIGAタイムを継続し、タブレットの学習履歴を指導で活かす。 ・初読の長文を講解する機会を継続し、長文に対する苦手意識の軽減を図る。 ・重要な部分、問題提起の部分、まとめの部分等が読み分けできるようにアンダーラインや囲みをしたり、相互関係を整理してまとめさせたりする。			

#### (2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○自分で考えたことを自分なりの言葉を使い、相手に伝えようとしている児童が多い。 ●自分の思いや考えを、筋道立てて表現することが苦手な児童が多い。	・自分の思いや考えを、理由や根拠を明確にして、筋道を立てて表現できる。 ・目的に応じてタブレットを活用し、自分の考えを文にして表現できる。	・比較したり言い換えたりするような深い学びに繋がる発問を工夫したり、思考ツールを活用したりする。 ・グループ学習やペア学習で自由に自分の言葉で話せる機会を設ける。 ・ホワイトボードや協働学習支援アプリ等を用いて他者の意見を取り入れる場面の設定をする。 ・タブレットを使って書いた文章を発表し合ったり、協働学習支援アプリで読み合ったりさせる。			

#### (3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○宿題などの与えられた課題に対して、真面目に取り組む児童が多い。 ○指示された学習や手順の分かる学習には根気よく取り組むことができる。 ●応用課題や発展課題などに主体的に取り組むことに課題がある。 ●家庭で読書をしている割合が低い。	・自ら課題に気づき、解決することができる。 ・各教科の応用・発展課題に主体的に取り組むことができる。 ・家庭学習の状況を振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。 ・教科書に関連した本を読み、学習を深めることができる。	・学習のめあてや単元のゴールを明確にすることで、児童に見通しをもって学習させ、次第に繋がるような振り返りの時間を確保する。 ・体験や交流を多く取り入れた活動を設定し、児童自ら課題に気づき解決できるように支援する。 ・家庭学習チェックカードのコメント欄を利用し、児童や保護者に家庭学習の意欲づけをする。 ・積極的にタブレットを活用し、子どもたちが主体的に学習に取り組む意欲を高める。 ・教科書に関連した書物を教室に置き、読書タイムなどの時間に並行読書を奨励する。			

## 令和5年度 学力向上ロードマップ



